

2020年度の事業報告書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

NPO 法人 Sharing Caring Culture

1 事業の成果

■ドコモ市民活動団体助成事業—子ども多文化交流事業でオンラインプログラムを提供

2019年度に続き、今年度もドコモ・モバイルコミュニケーションファンドの助成と都筑区の後援をいただき、子ども多文化交流事業を実施しました。主に外国人在住者が講師となって、世界の料理や行事、多言語読み聞かせなど、子どもたちが地域の中で多様な価値観にふれ、認め合う活動を提供しました。新型コロナウイルスの社会情勢を鑑み、オンライン化を進め、タイ料理や和食のオンライン親子クッキングを実施。なかでもインドや韓国の在住者と繋いだオンラインツアーを実施したことは顕著な成果といえます。地域や国を超えたコミュニケーションが可能となり、参加者層が広がったばかりか、インドへ帰国したメンバーによるオンラインツアーでは、6名のプロジェクトメンバーが知恵を出し合って海外とのライブ配信を行い、子ども多文化交流事業の新たな可能性を見出しました。

■かながわ民際協力基金—外国籍の子育て応援事業2年目の実施

私たちが活動拠点としている都筑区、青葉区は、外国籍家族が集住しておらず、転出入も多い地域で、特に在住歴が浅く、日本語でのコミュニケーションに困難を抱えている子育て世代の外国人家族は、言葉の壁に加えて文化的な違いから孤立しやすく、多くの支援を必要としています。2019年度に続き、かながわ民際協力基金の助成を受け、今年度も未就学児を育てている家族向けの親子交流会を実施。11月にはプロジェクトメンバーがピアノとフルートを演奏し、親子向けのバリアフリーコンサートを2回公演したところ、どちらの回も満席になる程、盛況でした。また、2021年4月より毎月1回、都筑区子育て支援センターポポラと協業により、子育てワークショップを開催することが決まりました。当法人の外国人メンバーと日本人のバイリンガルメンバーがファシリテーターとなって、英語とやさしい日本語で毎月のテーマに沿って子育てのアイデアをシェアする場を設けます。それに先立ち、2021年1月に当法人代表理事の三坂が子育て支援センターの常勤スタッフ研修にて「多文化共生の視点をもつ場づくり」というテーマで講話をし、これまでの経験から外国人家族と接する上でのマインドセットについて、ヒントを授けることができました。

■団体基盤助成による事務局の設置

アイネット地域振興財団の団体基盤助成によって、6月より事務局を設置した結果、2名の有償ボランティアスタッフが業務を分担し、事務作業の効率化が図られました。年間の活動回数は減ったものの、2019年度に26名だった会員数は、今年度46名に増加。組織の運営にも携わる正会員の数は14名に増え、その半数にあたる7名は外国出身者で構成されました。このように、在住外国人とともに運営し、彼らの主体的な関わりによって、スキルやキャリア、個性が地域で発揮されるNPOとしての運営体制を構築しました。

■「外国人と考えるジェンダーギャップワークショップ」神奈川新聞に掲載

横浜市男女共同参画センター横浜北の公募型事業として11月に実施した「外国人と考えるジェンダーギャップ」ワークショップについて、神奈川新聞社会部の記者から取材を受け、11月15日朝刊社会欄にワークショップの詳細が記事掲載されました。

■都筑区図書館、あーすぷらざ、東京都美術館など外部からの事業委託

外国出身のメンバーと日本人のメンバーが協働しながら企画立案し、運営を行う当法人に外部から事業委託

の案件が入り、今年度は、都筑図書館（都筑区地域振興課）や神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぶらざ）からの依頼でインド、中国、タイの出身者による多言語読み聞かせを実施したほか、東京都美術館より委託を受け、ダイバーシティプログラムの企画運営に協力し、通訳、翻訳を担当しました。また、カシオ株式会社の広告に出演するモデルを当法人の会員の中で公募し、撮影までのコーディネートや撮影当日の通訳を行いました。

2 事業内容

事業名（定款に記載した事業）	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者及び人数	支出額	
異文化交流事業	ア 外国籍の子育て支援事業	外国人主婦のファシリテーターが英語で進行する親子交流会を開催。英語の歌、手遊びの他に日本人ファシリテーターによる紙芝居などを実施。母親同士で日頃の困りごとなどを共有する。今年は、オンラインで小児医療や防災をテーマに情報交換のおはなし会を開催したほか、親子バリアフリーコンサートも実施。	年間 13回	アートフォーラムあざみ野 子どもの部屋、山内地区センター音楽室、 オンライン会議室 Zoom	4人	主に乳幼児を育てている外国籍親子、日本人の親子 114人参加	84,484円
	イ 子どもの育成支援事業	ドコモ市民活動団体助成事業による助成を受け、子ども多文化交流事業を実施。世界の行事、料理、多言語読み聞かせの3つの活動を実施。新型コロナウイルスによる社会情勢に応じて、オンライン化を進めた。主に外国人主婦が講師となり、子どもたちが多文化にふれる機会をつかった。	年間 11回 7/4 7/25 9/20 9/26 10/31 11/15 12/6 12/21 1/22 1/30 3/28	アートフォーラムあざみ野 セミナールーム、山内地区センター、都筑中央公園、 オンライン会議室 Zoom	10人	外国につながる幼児、児童の他、日本人の幼児、児童 156人参加	852,747円
地域の多様な主体が連携・協働	ア 英語版子育てレファレンスブック OYACO 出版事業	2018年に外国籍家族向けに英語で制作した地域の子育て情報冊子 OYACO を当事者の外国人家族の情報格差を埋めることを目的として、主に横浜市内北部地域で配布。	通年	都筑区子育て支援センターポポラ、都筑マイプラザ、都筑区こども家庭支援課、BOSCH、横浜獨逸学園、青葉区子育て支	3人	子育て中の外国人在住者	0円

				援センターラ フルなど			
イ 多文化共生 協働事業	外国人在住者が主体的に企 画運営に携わり、地域企業や 団体との協働のもと事業を 実施。多言語読み聞かせ、ア ートのダイバーシティプロ グラム、企業広告への協力な どを行なった。	11/15 11/20 11/23 1/19 3/21	都筑図書館 カシオ株式会 社 東京都美術館 カシオ株式会 社 あーすぶらざ		一般市民	419,440 円	
ウ 団体基盤助 成事業	団体の組織体制を整え、事務 局を設置。事務作業を分担 し、業務の効率化を図った。	通年	オンライン会 議室 Zoom	4 人	団体の正会 員	295,196 円	
エ 会員自主企 画事業	週末に家族で屋外で集まる イベントのほか、ジェンダー ギャップワークショップで は、当法人の外国人メンバー がゲストスピーカーとして 登壇し、外国人在住者が感じ る日本のジェンダー問題を テーマに対話の場で意見交 換する機会をつくった。	6/27 8/22 10/24 11/8 11/14	寺家ふるさと 村、こどもの 国、等々力溪 谷、アートフ ォーラムあざ み野	6 人	一般市民 138 人参加	54,500 円	